

行動する知性。



# これからの 学術情報プラットフォーム



---

中央大学文学部 小山憲司

koyama@tamacc.chuo-u.ac.jp

2017年6月8日  
国立情報学研究所  
学術情報基盤オープンフォーラム2017

# 目次

- はじめに
- 議論の前提
- これからの学術情報プラットフォーム(私見)

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所と  
国公立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する  
協定書

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所（以下「甲」という。）と国公立大学図書館協力委員会（以下「乙」という。）は、包括的な連携・協力の推進にあたり、次のとおり協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲及び乙が、総合目録データベースの構築、機関リポジトリの推進、教育研修などの事業を通じて構築してきたこれまでの連携・協力関係を踏まえ、昨今の学術情報の急速なデジタル化の進展の中で、我が国の大学等の教育研究機関において不可欠な学術情報の確保と発信の一層の強化を図ることを目的（以下「本目的」という。）とする。

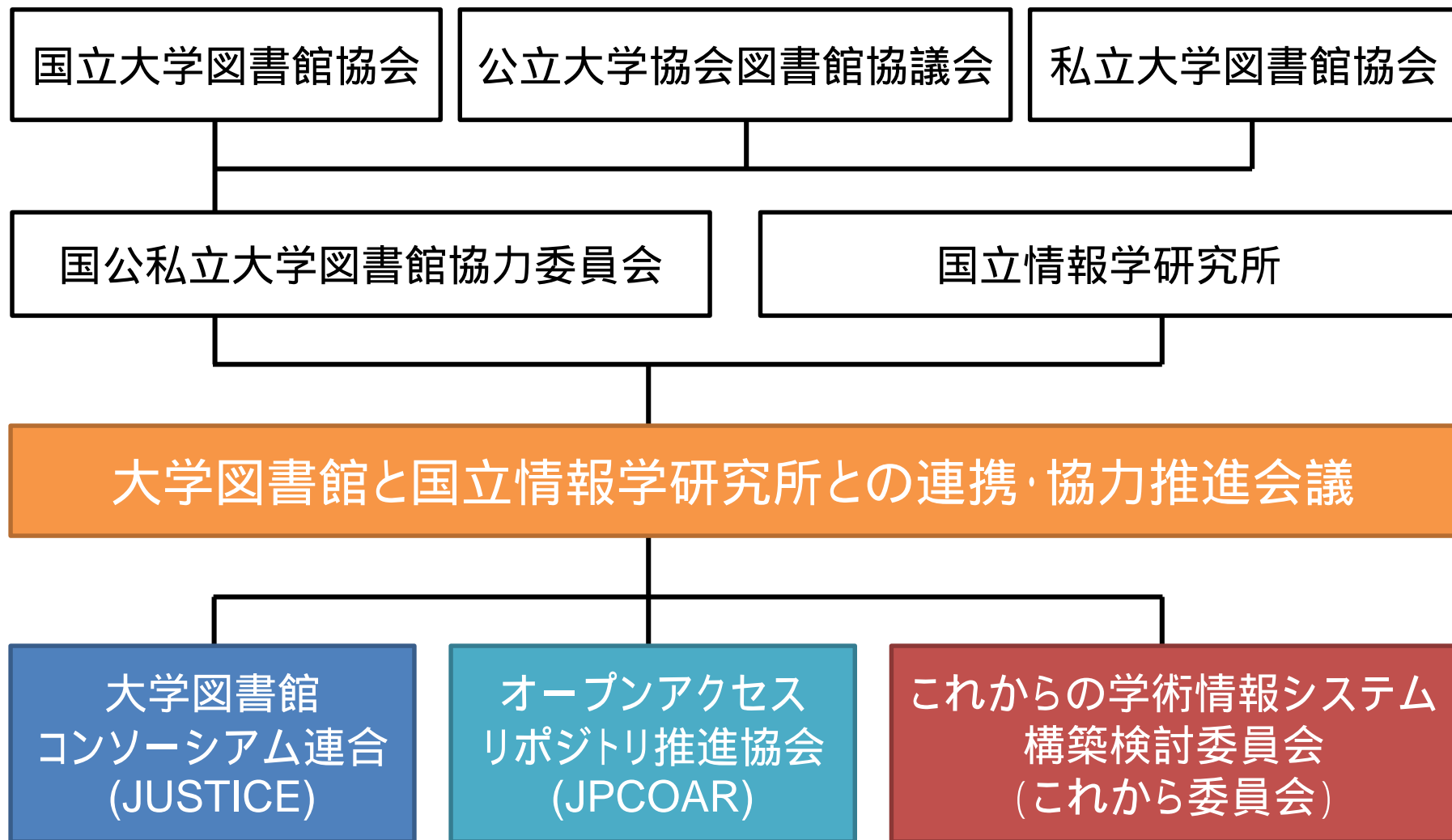
## (連携・協力の推進)

第2条 甲及び乙は、本目的を達成するために、次の事項について連携・協力を推進する。

- (1) バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備
- (2) 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
- (3) 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化
- (4) 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
- (5) 学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進
- (6) その他本目的を達成するために必要な事項

2 前項の事項について連携・協力を進めるために、甲及び乙は大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議を設置する。また、必要に応じて、この会議の下に、具体的な調査・検討及び事業等を実施するための組織を設置することができる。

# 検討体制の概要



## 大学図書館コンソーシアム連合

- (1) バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備
- (4) 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成

## オープンアクセスリポジトリ推進協会 (機関リポジトリ推進委員会)

- (2) 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
- (4) 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
- (5) 学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進

## これからの学術情報システム構築検討委員会 (これから委員会)

- (3) 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化

# 「これからの学術情報システムの在り方について」(2015年5月)

平成 27 年 5 月 29 日

これからの学術情報システム構築検討委員会

## これからの学術情報システムの在り方について

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下に設置された本委員会では、標記に係る状況を以下のように捉え、特に NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化を最重要課題として、国公立大学図書館等が国立情報学研究所と連携して解決していくための方策を検討している。

### 1. 取り巻く環境の変化

学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」(1980年)を受け、1985年に総合目録データベースの形成と図書館間相互利用を目的とする「目録所在情報サービス」の運用が開始されて以来、今日までに学術情報を取り巻く環境には様々な変化が起きている。特に、電子ジャーナルをはじめとした電子情報資源の普及によって、資料の流通・管理のあり方が大きく変貌したこと、また研究者、学生の情報利用や研究・教育のプロセスがますます電子的手段を前提とするものになっていることへの対応が急務となっている。

# 「これからの学術情報システムの在り方について」(2015年5月)

## 2. 進むべき方向性

これからの学術情報システムに求められるのは、ユーザーが必要とする学術情報を直接的かつ迅速に入手することができる環境であり、これらを実現するために、以下の3点を推進する必要がある。

- (1) 統合的発見環境の提供
- (2) メタデータの標準化
- (3) 学術情報資源の確保



# 「これからの学術情報システムの在り方について」(2015年5月)

## 3. 本委員会の当面の課題

### (1) 電子情報資源のデータの管理・共有

電子リソースデータ共有作業部会(飯野勝則主査)

### (2) NACSIS-CAT/ILLの再構築(軽量化・合理化)

NACSIS-CAT検討作業部会(三角太郎主査)

これからの学術情報システムは何を目指すのか  
所蔵目録から情報資源の発見とアクセスへ

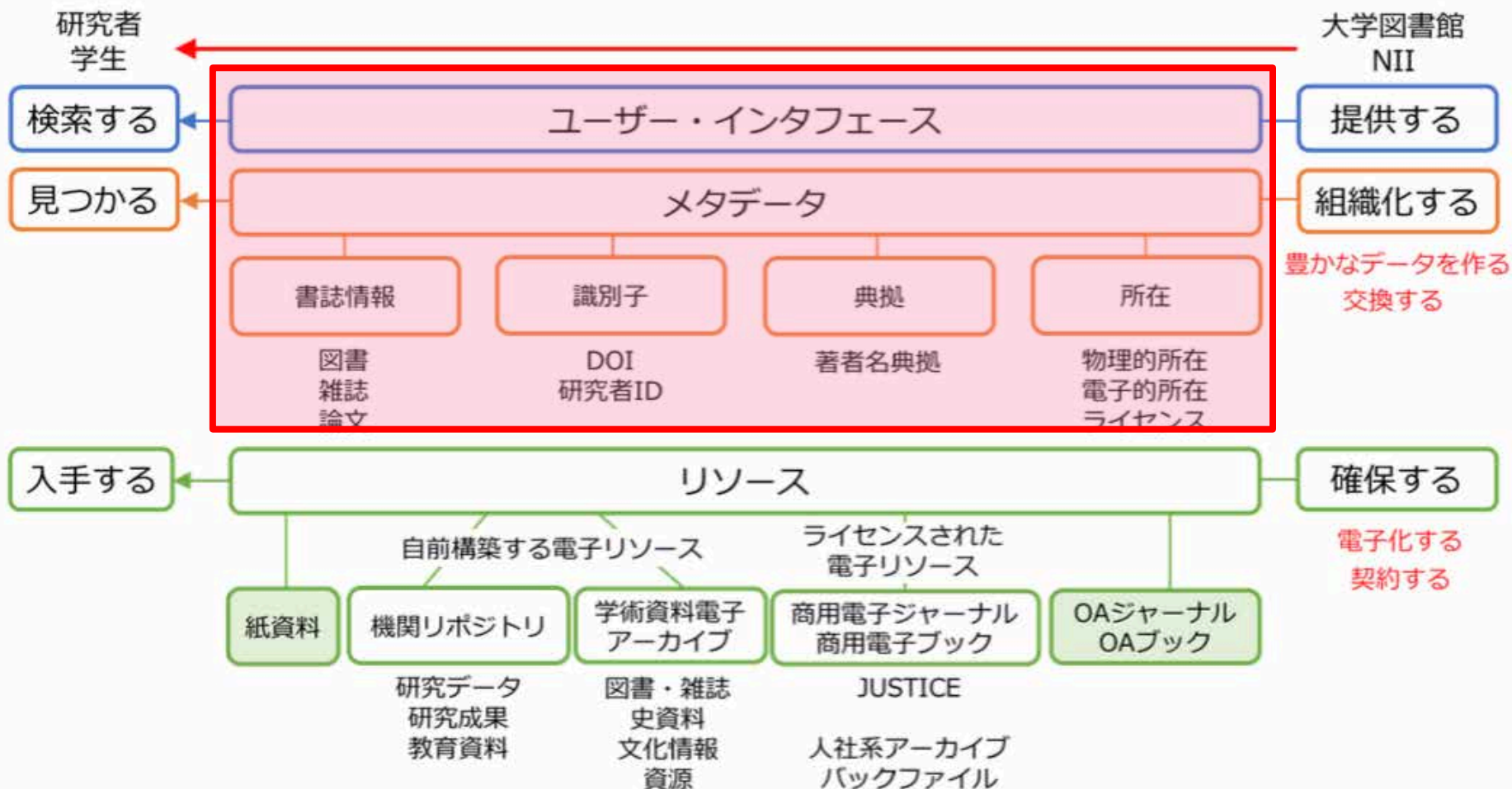
ERDB-JP - 国内電子出版物の国際発信力強化に  
向けた取り組み (北山信一・鹿児島大学)

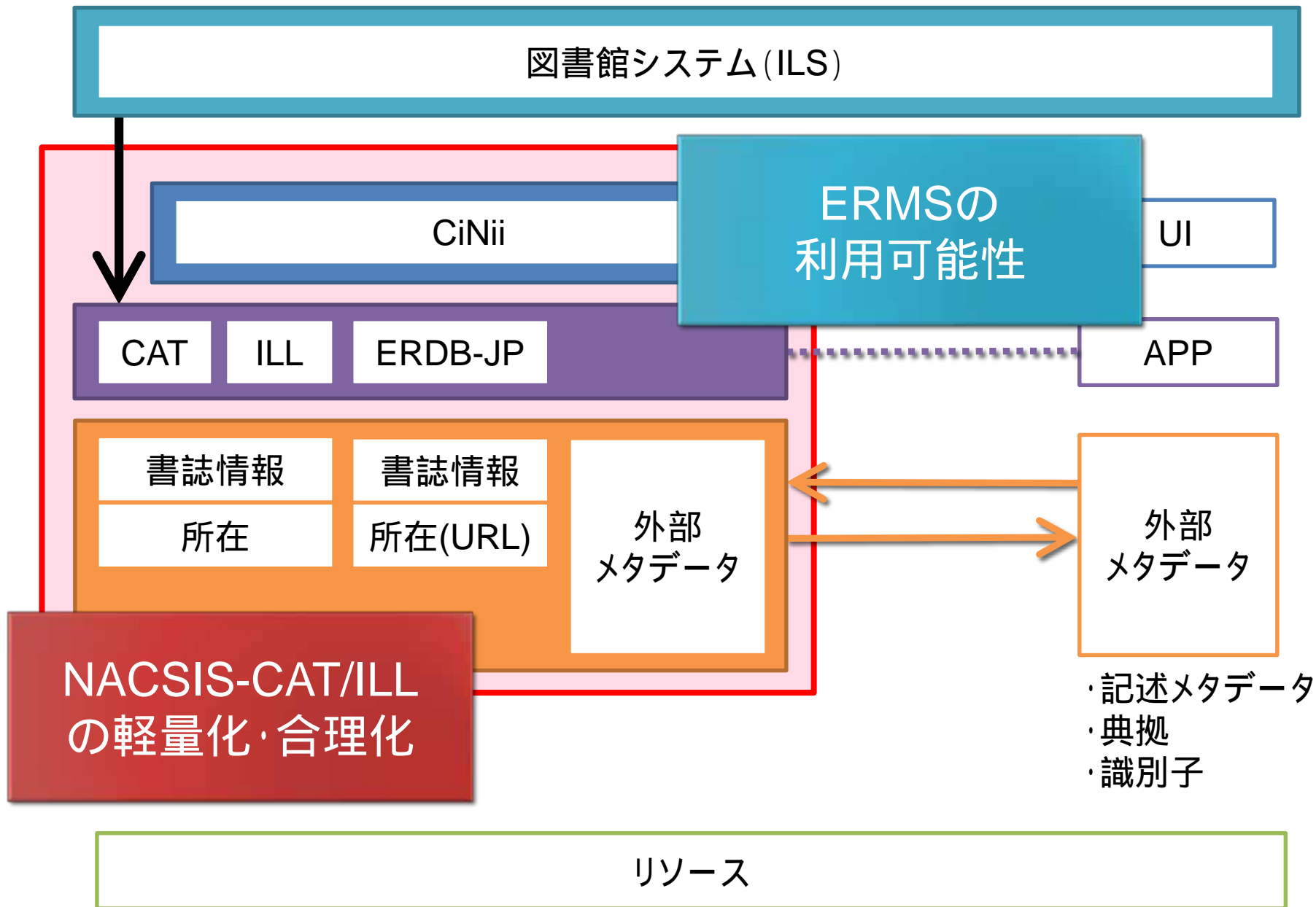
電子リソース管理システムの国内利用可能性に  
関する検討状況 (飯野勝則・佛教大学)

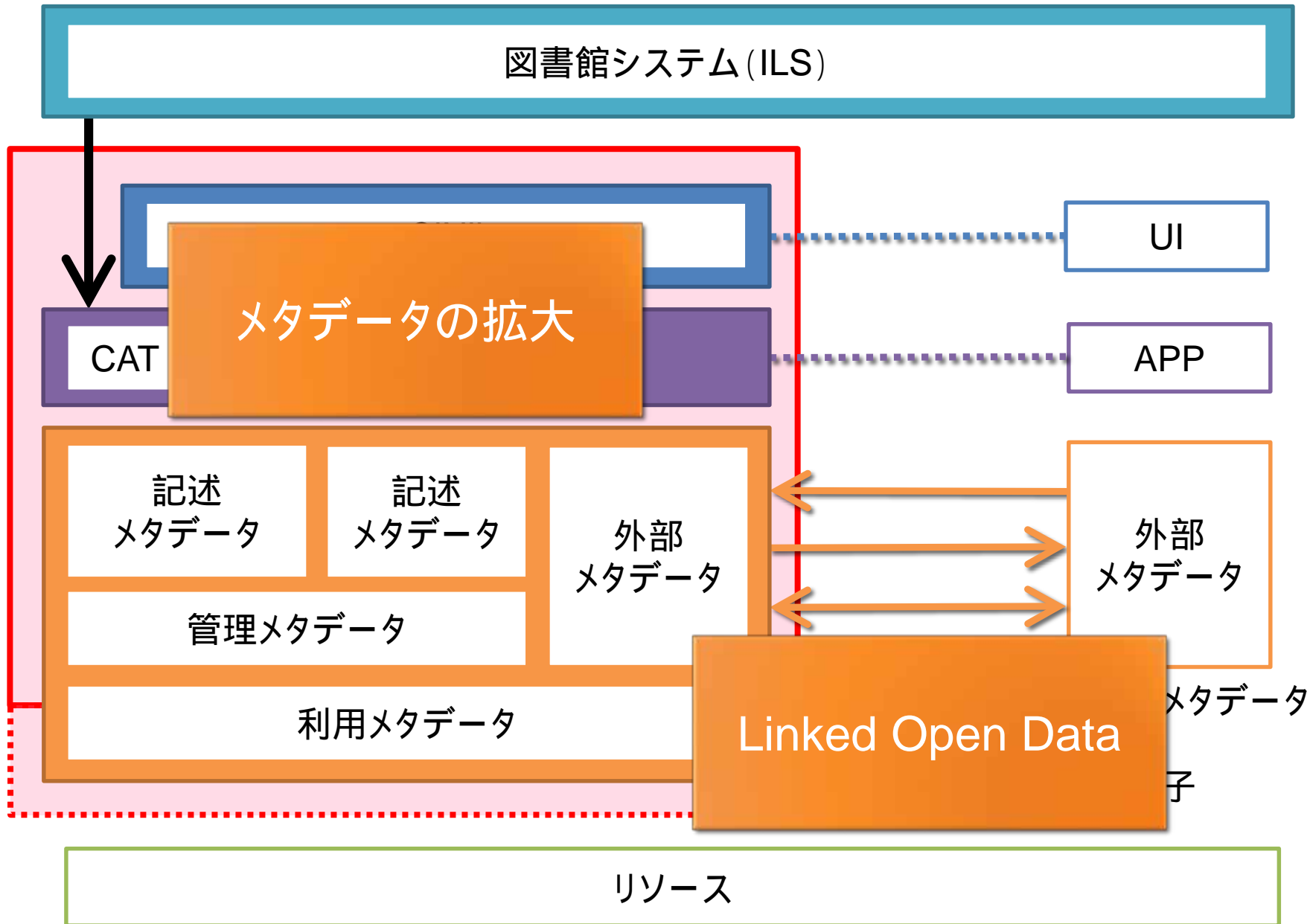
NACSIS-CATの軽量化・合理化について(実施方針)  
(三角太郎・筑波大学)

# 目録データのこれから

- データを組み合わせてサービスをつくる





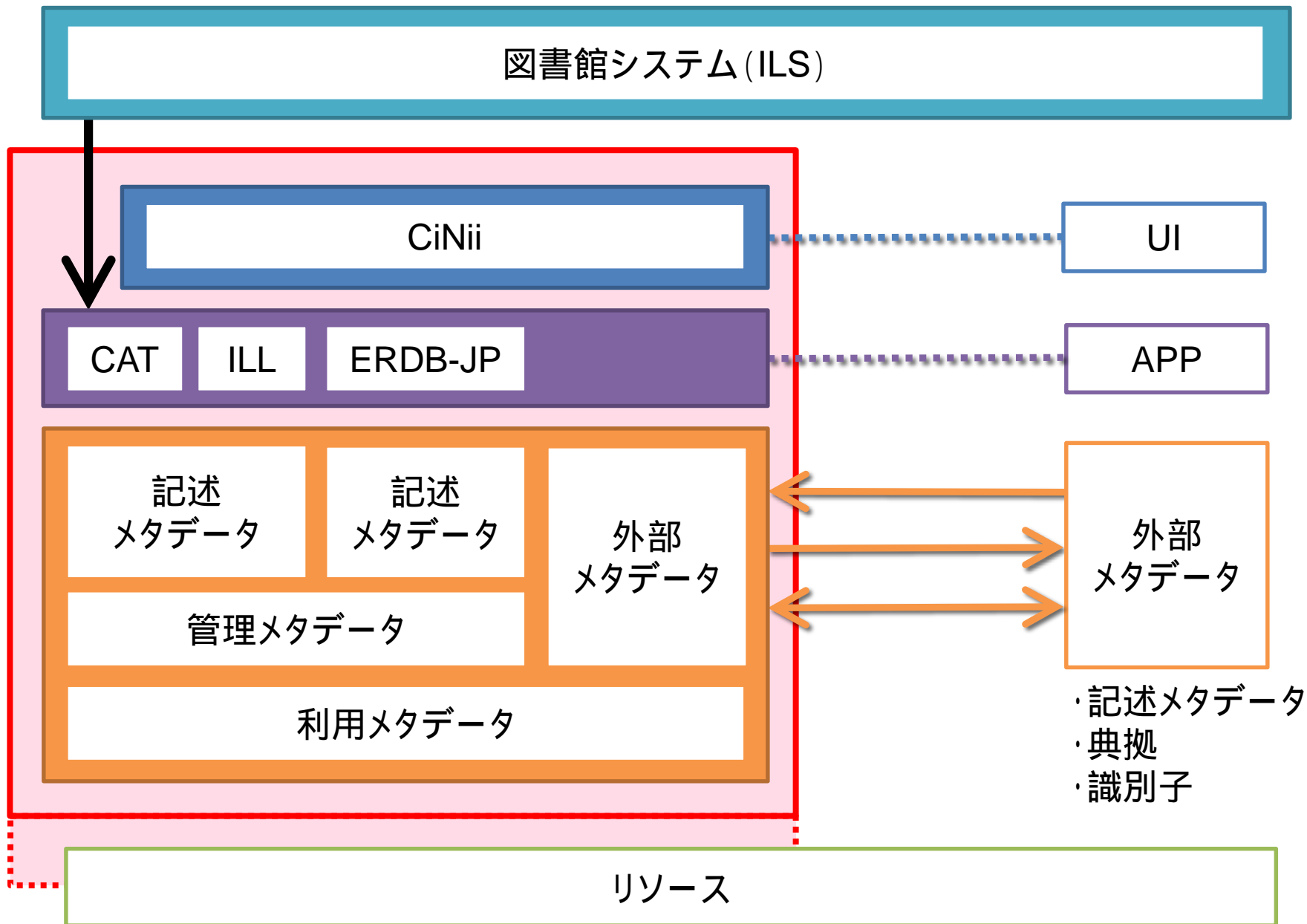


# さまざまなメタデータ

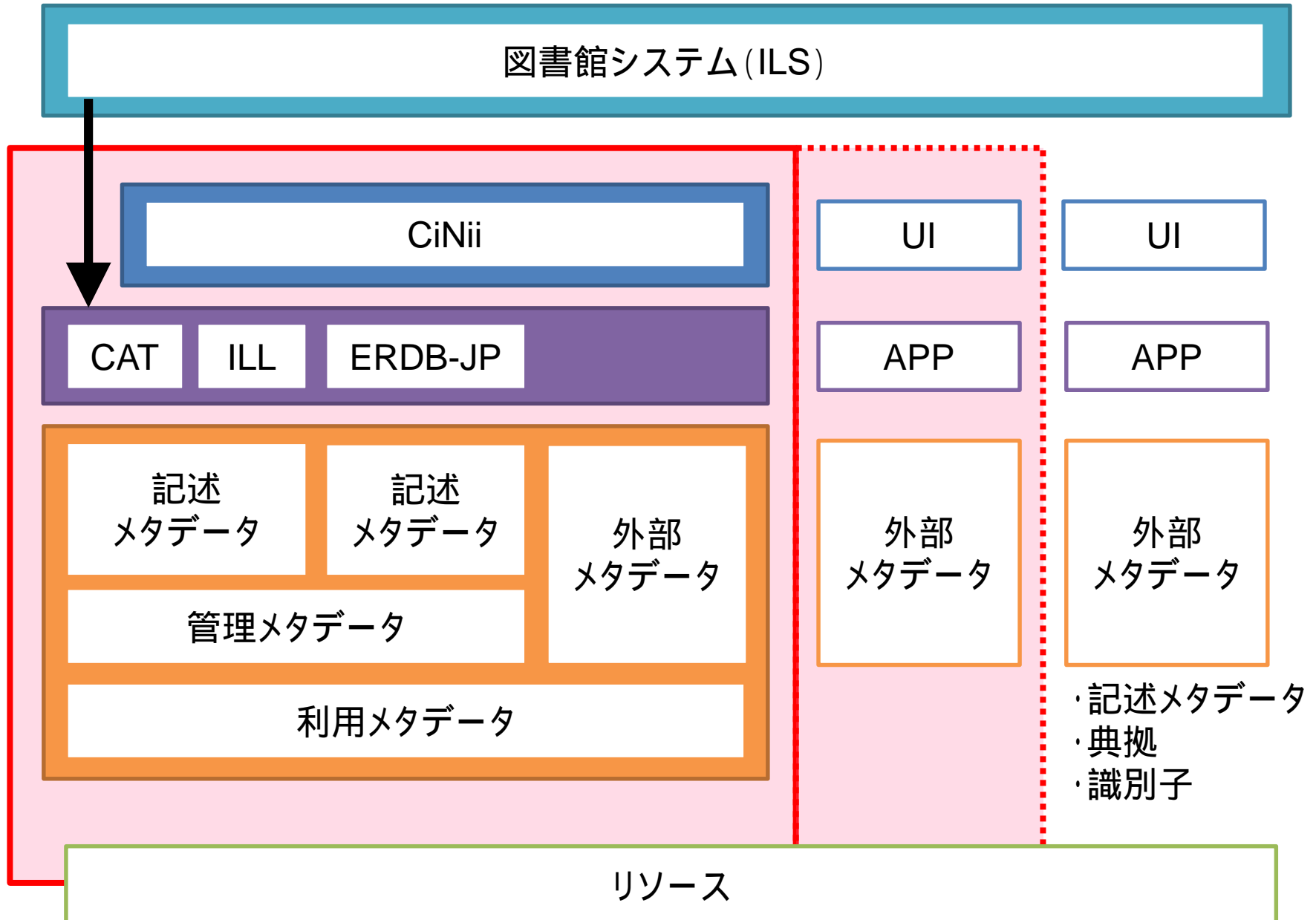
- 記述メタデータ (Descriptive Metadata)
- 管理メタデータ (Administrative Metadata)
  - 技術メタデータ (Technical Metadata)
  - 構造メタデータ (Structural Metadata)
  - 来歴メタデータ (Provenance Metadata)
  - 保存メタデータ (Preservation Metadata)
  - 権利メタデータ (Rights Metadata)
  - メタ・メタデータ (Meta-metadata)
- 利用メタデータ (Use Metadata)

# 図書館サービスの新たな可能性

- 学術情報の探索範囲の拡大
- 情報検索性能の向上
  - 利用(検索)ログにもとづく関連度順出力
  - メタデータ間のリンクを用いた可視化
- 集合的コレクション(Collective Collection)への展開
  - 印刷資料、電子資料の重複調査
  - 印刷資料の他大学との重複調査







## これから委員会の目標(再掲)

- 「ユーザーが必要とする学術情報を直接的かつ迅速に入手することができる環境をいかに実現するか」